

平成31年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書 開設学部（学科）名〔教育学部第四類（生涯活動教育系）音楽文化系コース〕

プログラムの名称（和文）	音楽文化教育プログラム
（英文）	Program in Music Culture Education
1. 取得できる学位：学士（教育学）	
<p>2. 概要</p> <p>音楽文化教育プログラムは、主に中・高等学校音楽科教員の養成を目的としているが、加えて生涯教育における専門的指導者など多様な人材の育成にも十分配慮している。そのために、自主的な学習態度を身につけ、論理的・批判的思考力を育成し、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけるためのアカデミックな学習基盤を形成することを目指す。</p> <p>本プログラムでは、中・高等学校の音楽科教育を実施するうえで必要な教育に関する基礎的な知識、能力、技能、および態度を、理論、実技、実習などを合わせて学習することによって体系的に身につけることができるようにカリキュラムが組まれている。</p> <p>また、大学院に進学し研究者として活躍する人材の育成や企業や公共事業団体における教育・文化専門職従事者の育成、さらには生涯教育の現場での指導者など、社会に貢献できる人材の育成にも対応している。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>音楽文化教育プログラムでは、主に中学校・高等学校の音楽科や各種音楽機関における音楽の指導者・研究者等、教育と音楽に関する高度な知識・技能を活用し、グローバルな視野をもって社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 中学校・高等学校の音楽科教員として必要な実践力を持ち、かつグローバルな視点に立って研究に発展させることができる。</p> <p>(2) 音楽に関する専門的な知識・技能を有し、音楽の実践者及び研究者として自立した活動ができる。</p> <p>(3) 生涯学習及び音楽文化全般にわたる基礎的な知識を修得し、社会と音楽を取り巻く諸問題に対し、創造的かつ現実的に対応することができる。</p>	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>音楽文化教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。</p> <p>1年次には、専門基礎科目である「ソルフェージュⅠ」、「声楽基礎研究」、「鍵盤楽器基礎研究」、「作曲基礎研究」等を履修し、音楽に関する基礎的な知識と技能を修得します。併せて、教養教育科目や外国語科目を履修し、音楽分野に偏らないグローバルな視野と能力を育成するとともに、社会と平和に貢献するための自覚を促します。また、「中・高等学校教育実習入門」を履修し、教育実習に対する基本的な心構えを学びます。</p> <p>2年次には、専門基礎科目である「生涯活動教育論」及び教養教育科目を引き続き履修し、視野を広げる</p>	

他、「教職入門」，「教育の思想と原理」，「教育と社会・制度」等の教育職員免許状取得に係る授業，及び「音楽科授業論」，「作曲」，「声楽」，「ピアノ」，「管弦打楽器」等の専門科目を履修し，教育と音楽について理論と実技の両面から専門的に学びます。また，教育実習の現場を視察する「中・高等学校教育実習観察」を履修し，音楽科授業を様々な視点から分析する能力を養います。

3年次には，教職必修科目及び「中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）」等の専門科目を引き続き履修する他，各附属学校における「教育実習指導B」及び「中・高等学校教育実習I」を履修し，教育現場での実践力を培います。また「コンサート・マネジメント」を履修し，実際に定期演奏会の企画・運営を行うことにより，協働して問題を発見し解決する能力を高めます。

4年次には，本プログラムで修得した専門的な知識・技能・能力を活用し，独自のテーマに基づいた「卒業論文」にまとめます。また，引き続き専門科目を履修することにより，器楽・声楽・作曲・音楽教育学に関するより高度で専門的な研究を継続することができます。

学修の成果は，各教科の成績評価と共に本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

プログラムの選択，および登録は，入学時とする。

6. 取得可能な資格

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより，中学校教諭一種免許（音楽），及び高等学校教諭一種免許（音楽）が取得できる。また，特定プログラムを追加して修得すると，学芸員，社会教育主事，学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は，別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に，学習の成果の評価項目ごとに，評価基準を示し，達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4，A=3，B=2，C=1と数値に変換した上で，加重値を加味し算出した評価基準値に基づき，入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」，「優秀(Very Good)」，「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

卒業論文は、本プログラムが目指す中・高等学校音楽科教員養成あるいは生涯教育における専門的指導者養成の到達点である。それまでに身に付けた必要な能力、技能を活用し、実際の教育・研究場面に使用し、自らの達成水準を見極め、さらに発展させ深めることを目的とする。研究および発表のスケジュールは下記の通りとする。

- 1) 研究テーマ発表：3年次前期
- 2) 中間発表：4年次前期
- 3) 最終発表：4年次後期末

10. 責任体制

1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

本プログラムは、主として教育学部の音楽文化教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（音楽文化教育学講座主任）にある。本プログラム教員全員による判定会議によって、計画・実施・評価・改善を行う。

2) プログラムの評価

本プログラムでは、教育的効果および社会的効果の2点を評価の観点とする。教育的効果に関しては、本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足と、希望者の音楽科中等教員免許状取得要件の充足）による評価、および実施した教員グループによる総合的な評価によって行われる。なお、プログラム外からの評価検討・改善は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。評価結果を踏まえ、プログラムの改善を行うとともに、学生の指導、授業科目の効果の検討を行い、プログラムの運営に反映させる。

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第四類 音楽文化系コース（音楽文化教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ						
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	○													
	大学教育基礎科目																		
		大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○												
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○												
	領域科目	人文社会科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○									
		自然科学系科目群	4		1又は2	選択必修	○	○	○	○									
	外国語科目	英語 (注2)	(0)	コミュニケーション基礎 I	1	自由選択	○												
				コミュニケーション基礎 II	1			○											
		初修外国語	4	(0)	コミュニケーション I A	1	選択必修	○											
					コミュニケーション I B	1		○											
					コミュニケーション II A	1			○										
					コミュニケーション II B	1			○										
			-	(0)	上記4科目から2科目以上														
				(0)	コミュニケーション上級英語	1	自由選択	○	○										
				4	ベーシック外国語 I (注5)	1	選択必修	○											
			ベーシック外国語 II (注5)		1	○													
		ベーシック外国語 III (注5)	1			○													
		ベーシック外国語 IV (注5)	1			○													
			(0)	インテンシブ外国語 I	1	自由選択	○												
			(0)	インテンシブ外国語 II	1	自由選択		○											
		(0)	海外語学演習	1	自由選択														
	情報科目	2	(注6)	2	選択必修	○													
	健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○												
	社会連携科目	(0)		1又は2	自由選択	○	○												
	基盤科目	(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○										
	自由選択科目	10	(注7)	1～3	選択必修	○	○	○	○										
	計	36																	

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

注5：ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択すること。

注6：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注7：領域科目、外国語科目、情報科目、健康スポーツ科目、社会連携科目、基盤科目を対象とする。

学部履修基準

第四類（生涯活動教育系）

○ 音楽文化系コース（音楽文化教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数		
教 養 教 育	平和科目		2	36	
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2		
		教養ゼミ	2		
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群		4
			自然科学系科目群		4
		外国語科目	英語		4
			初修外国語		4
		情報科目	2		
		健康スポーツ科目	2		
		社会連携科目	(0)		
基盤科目		(0)			
自由選択科目		10			
専 門 教 育	専門基礎科目		32	92	
	専門科目		29		
	専門選択科目		25		
	自由選択科目				
	卒業研究		6		
合 計			128		

<履修上の注意>

専門教育科目のうち『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、25単位まで認める。

専門教育科目履修基準

第四類 音楽文化系コース（音楽文化教育プログラム）

開設単位数欄の○印数字は必修

履修semester欄の○印は標準履修semester

区分	授業科目	開設単位数	履修semester								免許法該当科目	備考	
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
専門基礎科目	生涯活動教育論	②				○							類共通科目
	音楽教育学概論	②			○							教科の指導法（音楽）	
	音楽文化（音楽科）カリキュラムデザイン論	②			○							〃	
	西洋音楽史	②				○						音楽理論・作曲法・音楽史	
	声楽基礎研究Ⅰ	②	○									声楽	
	声楽基礎研究Ⅱ	②		○								声楽	
	鍵盤楽器基礎研究Ⅰ	②	○									器楽	
	鍵盤楽器基礎研究Ⅱ	②		○								器楽	
	作曲基礎研究Ⅰ	②	○									音楽理論・作曲法・音楽史	
	作曲基礎研究Ⅱ	②		○								〃	
	合唱Ⅰ	①			○							声楽	
	合唱Ⅱ	①				○						〃	
	器楽基礎研究Ⅰ	②	○									器楽	
	器楽基礎研究Ⅱ	②		○								〃	
	ソルフェージュⅠ	①	○									ソルフェージュ	
	アンサンブルA（管弦楽）Ⅰ	①			○							器楽	
	コンサート・マネジメントⅠ	①					○						
	コンサート・マネジメントⅡ	①						○					
	音楽文化教育研究法	②				○							
専門科目	音楽文化教育史	2						○				大学が独自に設定する科目	
	音楽科授業論	2				○						教科の指導法（音楽）	
	音楽科実践論	2					○					〃	
	音楽教育方法・評価論	2						○				〃	隔年開講
	音楽教育教材構成論	2				○						〃	
	日本音楽概論	2					○					音楽理論・作曲法・音楽史	
	中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）	2						○				〃	
	ソルフェージュⅡ	1		○								ソルフェージュ	
	声楽Ⅰ	1			○							声楽	
	声楽Ⅱ	1				○						〃	
	声楽Ⅲ	1					○					〃	
	声楽Ⅳ	1						○				〃	
	声楽Ⅴ	1							○			〃	
	声楽Ⅵ	1								○		〃	
オペラ実習Ⅰ	1			○							〃		
オペラ実習Ⅱ	1				○						〃		

区分	授業科目	開設 単位数	履修セメスター								免許法該当科目	備考
			1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ		
専 門 科 目	オペラ実習Ⅲ	1					○				声乐	
	オペラ実習Ⅳ	1						○			〃	
	オペラ実習Ⅴ	1							○		〃	
	オペラ実習Ⅵ	1								○	〃	
	合唱Ⅲ	1					○				〃	
	合唱Ⅳ	1						○			〃	
	合唱Ⅴ	1							○		〃	
	合唱Ⅵ	1								○	〃	
	ピアノ1	1			○						器楽	
	ピアノ2	1				○					〃	
	ピアノ3	1					○				〃	
	ピアノ4	1						○			〃	
	ピアノ5	1							○		〃	
	ピアノ6	1								○	〃	
	弦楽器1	1			○						〃	
	弦楽器2	1				○					〃	
	弦楽器3	1					○				〃	
	弦楽器4	1						○			〃	
	弦楽器5	1							○		〃	
	弦楽器6	1								○	〃	
	作曲1	1			○						音楽理論・作曲法・音楽史	
	作曲2	1				○					〃	
	作曲3	1					○				〃	
	作曲4	1						○			〃	
	作曲5	1							○		〃	
	作曲6	1								○	〃	
	指揮法	1				○					指揮法	
	管弦打楽器Ⅰ	1			○						器楽	
	管弦打楽器Ⅱ	1				○					〃	
	管弦打楽器Ⅲ	1					○				〃	
	管弦打楽器Ⅳ	1						○			〃	
	管弦打楽器Ⅴ	1							○		〃	
	管弦打楽器Ⅵ	1								○	〃	
	アンサンブルA（管弦楽）Ⅱ	1				○					〃	
アンサンブルA（管弦楽）Ⅲ	1					○				〃		
アンサンブルA（管弦楽）Ⅳ	1						○			〃		
アンサンブルA（管弦楽）Ⅴ	1							○		〃		

音楽文化教育プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 中等学校とその教育に関する基礎的な知識の習得とその理解	中等学校とその教育に関する十分な知識が習得できており、それらの理解にもとづいて中等学校やその教育の問題点と課題を指摘し、改善策を示すことができる。	中等学校とその教育に関する知識が習得できており、それらにもとづいて中等学校やその教育の問題点や課題を指摘することができる。	中等学校とその教育に関する基礎的な知識の習得とその理解ができる。
	(2) 中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識の習得とその理解	中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識を十分もっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等音楽系教育の理論と方法に関する基礎的な知識が身に付いている。
	(3) 中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識	中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	中等音楽系教育の教育内容に関する基礎的な知識が身に付いている。
能力・技能	(1) 中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得	中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる十分な知的能力と技能を習得することができる。	中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる適切な知的能力と技能を習得することができる。	中等音楽系教育に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能を習得することができる。
	(2) 音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能の習得	音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる十分な知的能力と技能を習得することができる。	音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる適切な知的能力と技能を習得することができる。	音楽系内容領域に関する課題設定から資料収集、分析・調査検討という研究過程を経て論文作成までに必要とされる知的能力と技能を習得することができる。
	(3) 中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力の習得	中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力を総合的に習得することができる。	中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力を十分に習得することができる。	中等音楽系教育に関するカリキュラムをデザインする能力、教材開発能力、学習指導案作成能力などの実践的能力を習得することができる。
総合的な力	(1) 研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる総合的な能力がある。	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる十分な能力がある。	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力がある。
	(2) 教育実習や定期演奏会などによって育成される社会性・協調性	教育実習や定期演奏会などによって育成された適切な社会性・協調性が十分にある。	教育実習や定期演奏会などによって育成された適切な社会性・協調性がある。	教育実習や定期演奏会などによって育成された社会性・協調性がある。
	(3) 研究において必要とされるIT活用力	研究において必要とされるIT活用力が十分にあり、それを応用することができる。	研究において必要とされるIT活用力が十分にある。	研究において必要とされるIT活用力がある。
専門的な力	(1) 生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識の習得とその理解	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を批判的に総合化することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識をもっており、それらの理解を総合化することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識が身に付いている。
	(2) 中等音楽系教育内容に関する基礎的な能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力の習得	中等音楽系教育内容に関する基礎的な能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力を総合的に習得することができる。	中等音楽系教育内容に関する基礎的な能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力を十分に習得することができる。	中等音楽系教育内容に関する基礎的な能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力を習得することができる。
	(3) 生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力の習得	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力を総合的に習得することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力を十分に習得することができる。	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導・企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力を習得することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、合唱あるいは吹奏楽実習という比較的大規模なアンサンブルによって音楽活動における共同と協調を体験できるように配慮がなされています。

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合的な力	研究・活動を企画・立案し、効果的に実行し、その成果を伝えることができる能力	外国語科目(○)	外国語科目(○)		音楽文化教育研究法(◎)				
	教育実習や定期演奏会などによって育成される社会性・協調性					コンサート・マネージメントⅠ(◎)	コンサート・マネージメントⅡ(◎)		卒業論文(◎)
	研究において必要とされるIT活用能力	情報科目(○)							卒業論文(◎)
専門的な力	生涯教育および音楽文化全般に関する基礎的な知識の習得とその理解	ソルフェージュⅠ(◎) 作曲基礎研究Ⅰ(◎)	ソルフェージュⅡ(△) 作曲基礎研究Ⅱ(◎)	合唱Ⅰ(◎) アンサンブルAⅠ(◎)	合唱Ⅱ(◎)				
	中等音楽系教育内容に関する基礎的な能力から高度な専門能力までの技能、加えて実技系の科目を統合する横断的能力の習得	声楽基礎研究Ⅰ(◎)	声楽基礎研究Ⅱ(◎)	声楽1(△)	声楽2(△)	声楽3(△)	声楽4(△)	声楽5(△)	声楽6(△)
		器楽基礎研究Ⅰ(◎)	器楽基礎研究Ⅱ(◎)	弦楽器1(△)	弦楽器2(△)	弦楽器3(△)	弦楽器4(△)	弦楽器5(△)	弦楽器6(△)
		ソルフェージュⅠ(◎)	ソルフェージュⅡ(△)	作曲1(△)	作曲2(△)	作曲3(△)	作曲4(△)	作曲5(△)	作曲6(△)
			作曲基礎研究Ⅱ(◎)	管弦打楽器Ⅰ(△)	管弦打楽器Ⅱ(△)	管弦打楽器Ⅲ(△)	管弦打楽器Ⅳ(△)	管弦打楽器Ⅴ(△)	管弦打楽器Ⅵ(△)
				アンサンブルBⅠ(△)	アンサンブルAⅡ(△)	<small>中等音楽科教育法(日本音楽・民族音楽)(△)</small>	合唱Ⅳ(△)	アンサンブルAⅤ(△)	アンサンブルAⅥ(△)
					アンサンブルBⅡ(△)	アンサンブルAⅢ(△)	アンサンブルAⅣ(△)	アンサンブルBⅤ(△)	アンサンブルBⅥ(△)
					指揮法(△)	合唱Ⅲ(△)	アンサンブルBⅣ(△)	合唱Ⅴ(△)	合唱Ⅵ(△)
					アンサンブルBⅢ(△)				
	生涯教育および音楽文化全般に関する実技指導技能、企画・制作能力、およびプレゼンテーション能力などの実践的能力の習得	健康スポーツ科目(○)	器楽基礎研究Ⅱ(◎)	声楽1(△)	声楽2(△)	声楽3(△)	声楽4(△)	ピアノ5(△)	ピアノ6(△)
		器楽基礎研究Ⅰ(◎)	鍵盤楽器基礎研究Ⅱ(◎)	ピアノ1(△)	ピアノ2(△)	ピアノ3(△)	ピアノ4(△)	弦楽器5(△)	弦楽器6(△)
		鍵盤楽器基礎研究Ⅰ(◎)		弦楽器1(△)	弦楽器2(△)	弦楽器3(△)	弦楽器4(△)	合唱Ⅴ(△)	合唱Ⅵ(△)
				オペラ実習Ⅰ(△)	生涯活動教育論(◎)	合唱Ⅲ(△)	合唱Ⅳ(△)	オペラ実習Ⅴ(△)	オペラ実習Ⅵ(△)
				アンサンブルBⅠ(△)	オペラ実習Ⅱ(△)	オペラ実習Ⅲ(△)	オペラ実習Ⅳ(△)	アンサンブルAⅤ(△)	アンサンブルAⅥ(△)
				作曲1(△)	アンサンブルAⅡ(△)	日本音楽概論(△)	アンサンブルAⅣ(△)	アンサンブルBⅤ(△)	アンサンブルBⅥ(△)
				アンサンブルBⅡ(△)	アンサンブルAⅢ(△)	アンサンブルBⅣ(△)	声楽5(△)	声楽6(△)	
				指揮法(△)	アンサンブルBⅢ(△)	作曲4(△)	作曲5(△)	作曲6(△)	
			西洋音楽史(◎)	作曲3(△)					

(例) 教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

(△)選択科目

音楽文化教育プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
濱本 恵康	教授	6825	F 107	yhamamo@
枝川 一也	教授	6830	F 205	edagawak@
三村 真弓	教授	6822	F 309	mimuram@
高旗 健次	教授	6831	F 206	kent-violin@
伊藤 真	准教授	6823	F 301	itoshin@
徳永 崇	准教授	6827	F 304	t-tokunaga@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））